

# 医療法人社団鶴友会 鶴田病院 回復期リハビリテーション病棟

## 2020年クリニカル・インディケータ 並びに 特色のご紹介

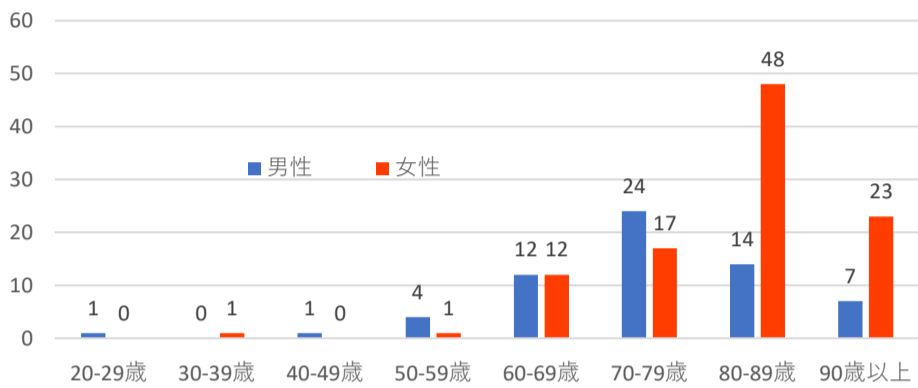
発行：地域連携・相談支援センター

### 性別・年齢

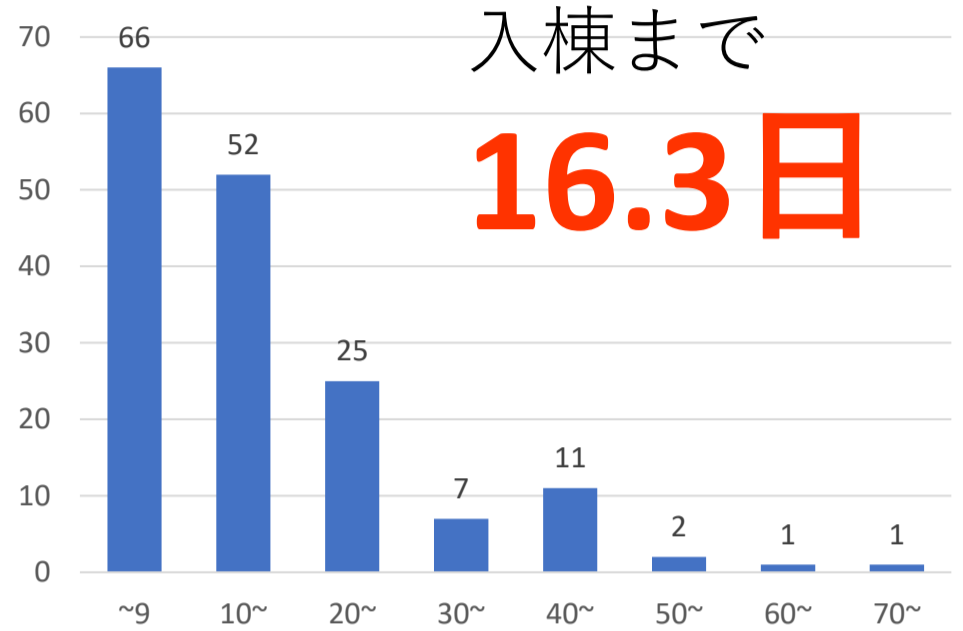
2020年1月~12月  
回復期リハ病棟  
退院患者割合

人数合計  
男性：63名  
女性：102名  
合計：165名

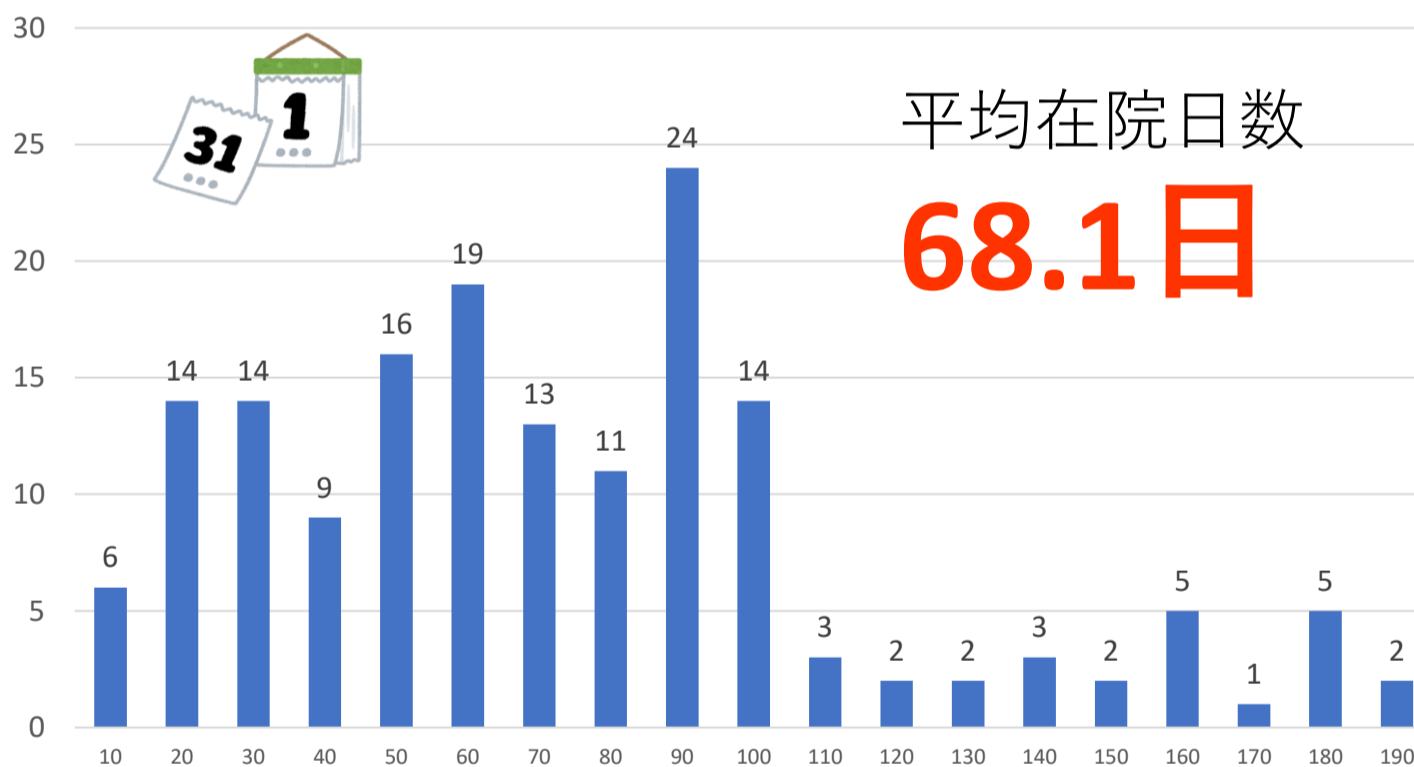
平均年齢  
男性75.3歳  
女性81.4歳  
全体79.0歳



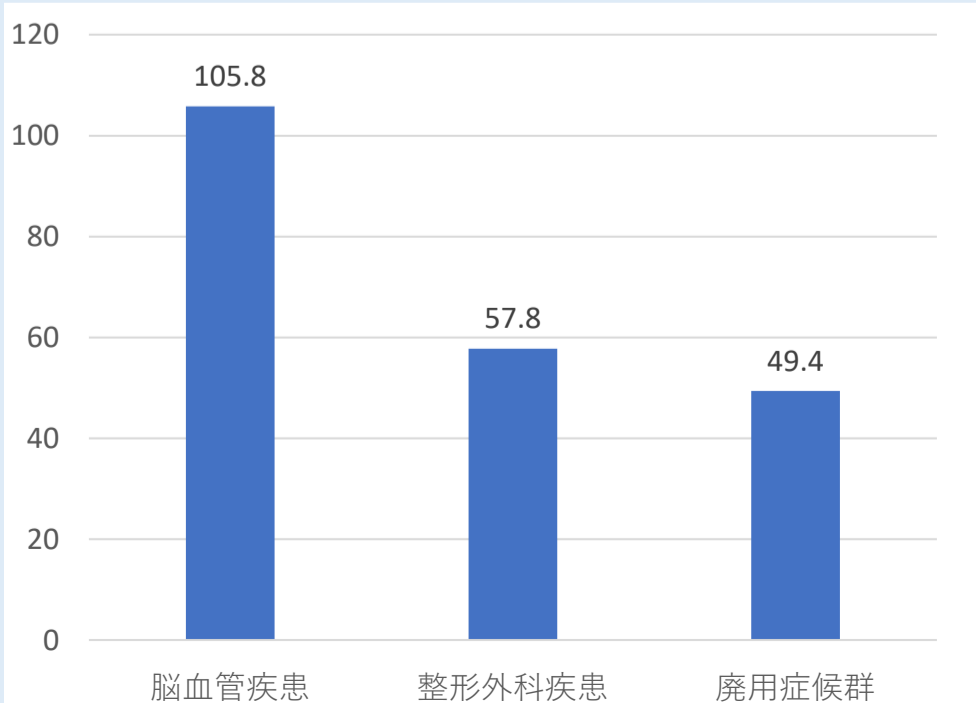
### 発症から入棟までの期間



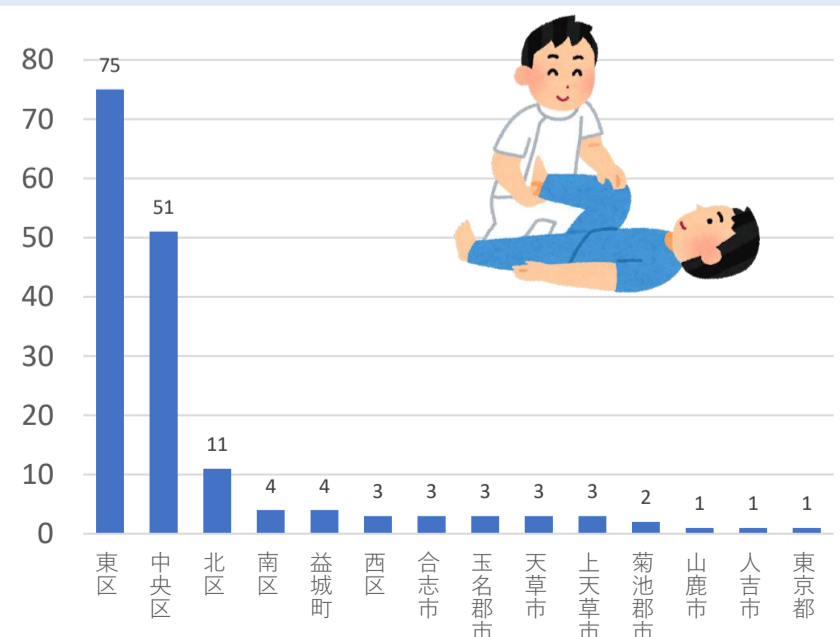
### 入院期間（日）



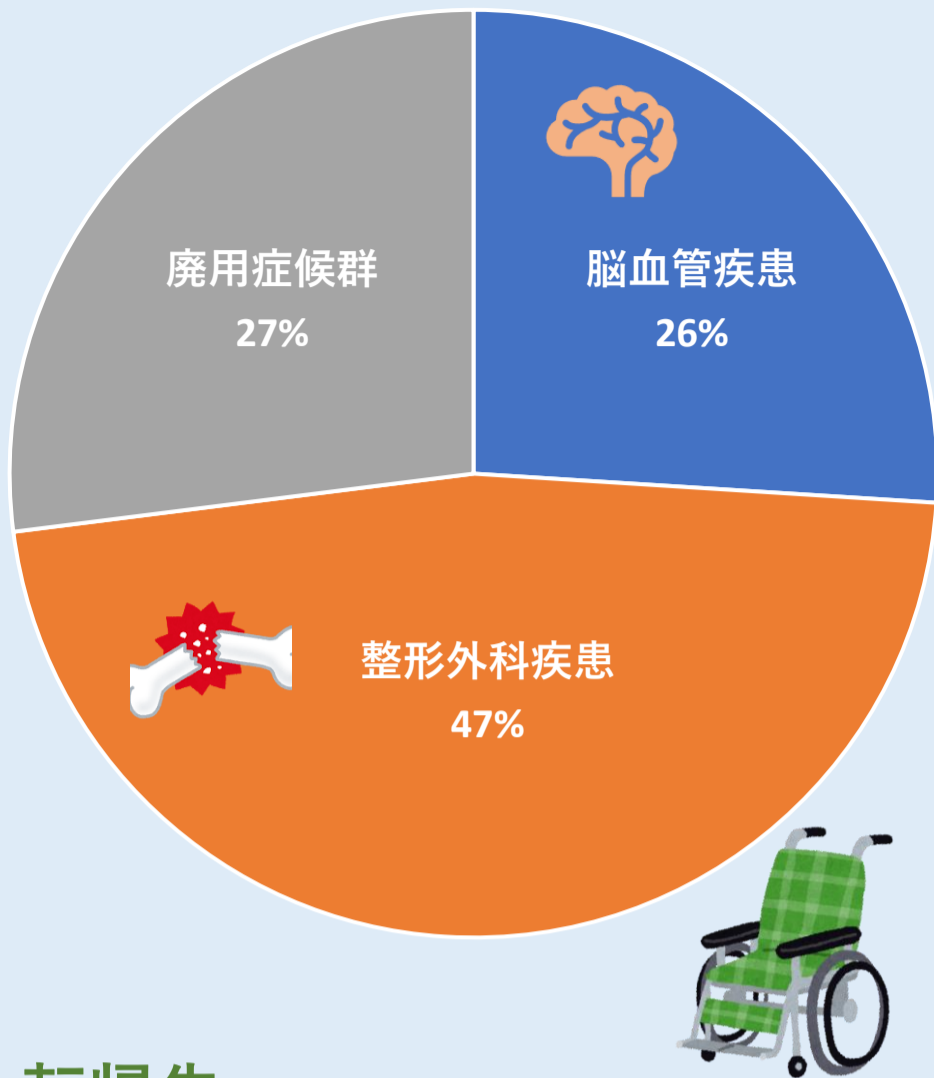
### 疾患別平均在院日数



### 患者住所



## 疾患分類割合



脳梗塞を始めとする脳血管疾患や整形外科術後の患者、開腹・開胸術後の患者など幅広い疾患のリハビリに対応しています。

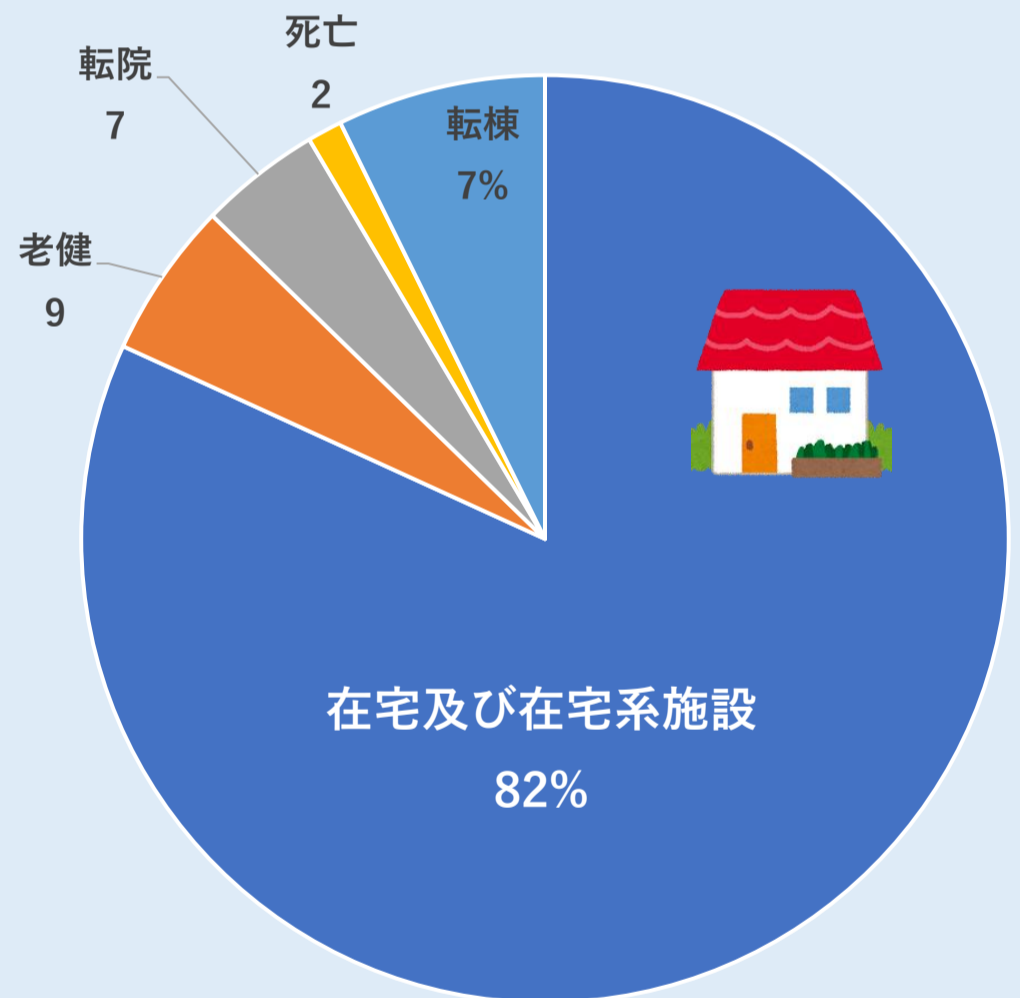
当院では運動器、脳血管、呼吸器、がんに関するリハビリテーションの施設基準を取得しており、複合する疾患をお持ちの患者さんにも対応いたします。



## 転帰先

在宅には有料老人ホームやグループホーム、特別養護老人ホームなどの施設も含まれます。入院早期から退院後の療養を想定したリハビリを開始します。また自院に一般病棟があり、合併症や急変時にも迅速に対応いたしております。

**在宅復帰率 81.8%**



1. 入棟までの期間は**16.3日**（※全国平均24.2日）と迅速な受け入れを行っています。
2. 平均在院日数は**68.1日**（※全国平均67.5日）でした。
3. 在宅復帰率は**81.8%**（※全国平均78.6%）でした。
4. 退院患者**165名**のうち透析患者が**16名**で、その内**13名**が在宅復帰されています（転帰：自宅退院12名、有料老人ホーム1名 老健1名、転院2名）

# リハビリテーション効果＜入院時～退院時 機能的自立度評価＞

n = 165	運動項目														
	セルフケア項目														
	食事			整容			清拭			更衣 (上半身)			更衣 (下半身)		
評価時期	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得
平均	5.2	6.1	0.8	4.1	5.7	1.5	2.5	4.4	1.9	3.4	5.3	1.8	3.1	5.1	1.9
標準偏差	2.1	1.8	1.6	2.0	1.9	1.5	1.5	1.9	1.5	2.1	2.1	1.7	2.0	2.2	1.7



運動項目														
セルフケア項目			排泄コントロール						移乗					
トイレ動作			排尿管理			排便管理			ベッド・椅子・車椅子			トイレ		
入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得
3.6	5.3	1.7	4.3	5.4	1.0	4.3	5.3	1.0	4.0	5.6	1.6	3.6	5.4	1.7
2.1	2.2	1.6	2.6	2.3	1.7	2.5	2.3	1.6	1.8	1.6	1.5	2.0	1.9	1.6



運動項目										運動項目小計			FIM 合計		
浴槽・シャワー			歩行・車椅子			階段									
入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院						
2.8	4.5	1.6	2.0	4.7	2.7	1.1	3.9	2.8	44.0	66.7	21.9	69.6	93.6	22.8	
1.8	1.8	1.5	1.8	2.2	2.4	0.6	2.0	2.0	21.0	23.9	15.4	28.4	30.9	17.7	

n = 165	認知項目																	
	コミュニケーション						社会的認知											
	理解 (聴覚・視覚)			表出 (音声・非音声)			社会的交流			問題解決			記憶			認知項目小計		
評価時期	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得	入院	退院	利得
平均	5.4	5.7	0.2	5.6	5.8	0.1	5.4	5.7	0.3	4.6	4.8	0.2	4.7	5.0	0.3	25.6	26.9	1.0
標準偏差	1.64	1.48	0.92	1.76	1.63	0.91	1.94	1.71	1.1	2.13	2.09	0.98	2.22	2.09	1.15	8.94	8.18	4.51

上の3段が運動項目です。全体の利得平均は21.9です。項目別では移動の利得が最も大きく、次いで更衣動作及び清拭、トイレ、移乗の順となります。下段が認知項目です。利得は合計の平均で1程度で変化はほぼありません。

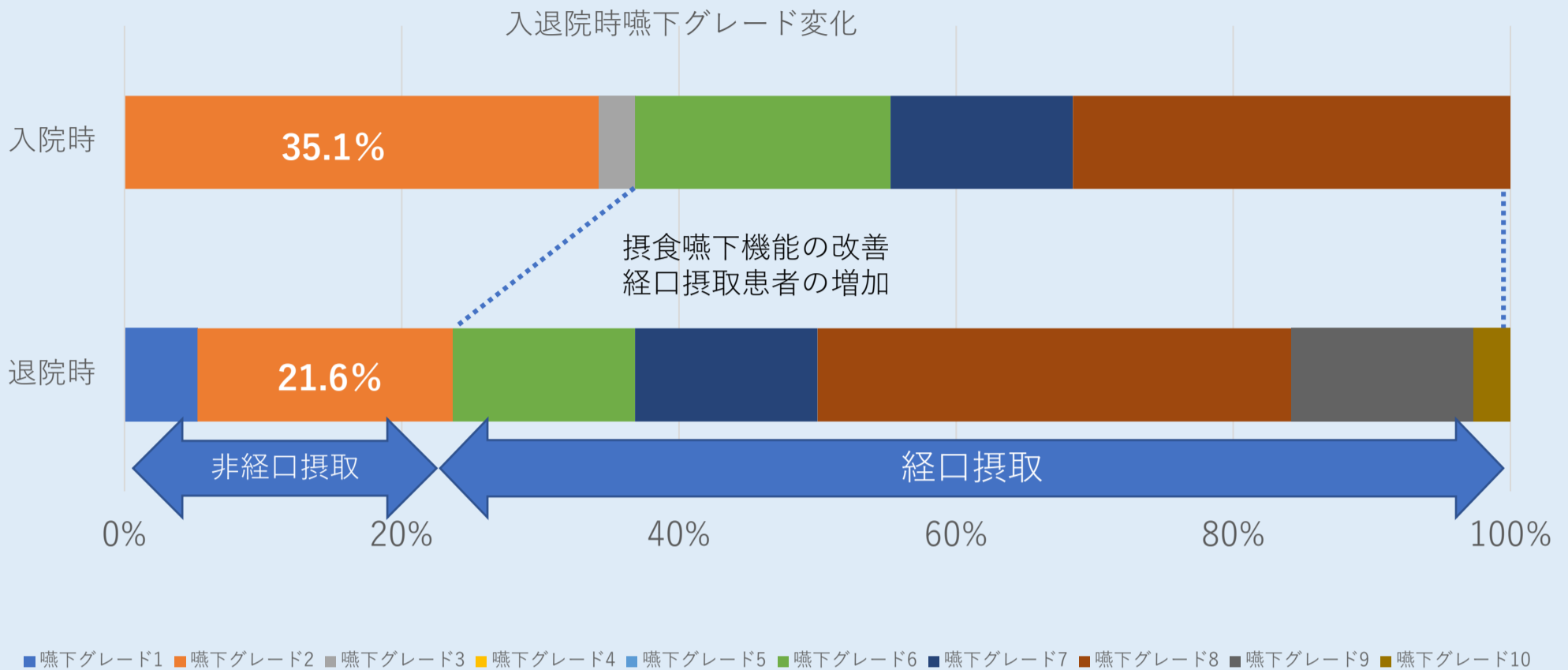
## 「口から食べる」を目標にしたリハビリ

言語聴覚士のリハビリ、嚥下評価やNSTの介入、栄養・調理指導や食事形態の工夫などチームで経口摂取を目標とした医療・リハビリを推進しています。

【経口摂取移行率】**53.8%** 入院時非経口摂取患者13名中7名は3食経口摂取へ移行

全国リハ病院25施設の経口摂取移行率は平均53.4%。当院も全国レベルの移行率を保持しています。

(回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の摂食嚥下障害と栄養状態の多施設実態調査, 2018)



グレード1~3 重症経口不可    グレード4~6 中等症経口と補助栄養    グレード7~9 軽症経口のみ    グレード10 正常

## 確かな効果につながるリハビリ

下記の指標が示す通り、各項目で回復期リハビリ病棟として一定程度の基準をクリアしております。

①重症患者割合 **30.5%**    ②重症患者回復割合 **69.0%**    ③リハ平均提供単位数 **6.01**

④回復期リハ病棟実績指数 **45.0** (2020年1月~6月退院患者)    /    **48.0** (2020年7月~12月退院患者)

実績指数とは、FIM 得点の改善度を患者の入棟時の状態および在院日数を踏まえて指数化したものです。

$$\text{実績指数} = \frac{(\text{退棟時のFIM 運動項目の得点} - \text{入棟時のFIM 運動項目の得点})}{(\text{各患者の入棟から退棟までの日数} \div \text{患者の入棟時の状態に応じた算定上限日数})}$$

厚労省の示す基準では、実績指数が「**27**以上」であれば、一定の基準以上のリハビリテーションが提供できているとされます。

## 幅広い疾患に対応するリハビリ

当院ではがんリハビリテーションの施設基準も取得しています。がんリハ研修修了者も多く在籍しており、基礎疾患、既往歴に癌疾患がある患者様も安心して回復期リハビリテーションを受けることができます。

⇒在職者のがんリハ研修修了者**28**名 (内医師4名 リハ19名 看護師他5名) 2021年2月1日現在

## 人工透析患者に対するリハビリ

法人内に人工透析センターがあり、透析患者様へのリハビリテーションはリスク管理しながら実施可能です。人工透析患者は全身管理が難しい上に、時間的な制約も大きいため、県内でもまだまだ受け入れ施設が少ない状況です。

当院では透析患者にも平均**5.9単位**のリハビリを提供し、高い在宅復帰率を保持しています

(2020年1月~12月の退院患者16名の実績)